

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成19年10月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1570201077		
法人名	社会福祉法人 信濃川令終会		
事業所名	グループホームこうなん		
所在地	新潟県長岡市渡沢町字早田53番地 (電話) (0258)23-7611		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	19年	9月5日

【情報提供票より】 19年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	15人、非常勤 0人、常勤換算 15人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 建ての	1 階 ~ 2 階	部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	350 円
	夕食	340 円	おやつ	円
	または1日あたり		円	

### (4) 利用者の概要 ( 19年 6月現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	厚生連 長岡中央総合病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長岡市郊外の田園地帯にあり、自然豊かでのどかな環境である。ホームは、同法人の特別養護老人ホームやケアハウスと同じ敷地内にある。建物は木材をふんだんに使っており、木のぬくもりを感じ、一般家庭のような温かみがある。2ユニットのホームであるが建物は別になっており、それぞれが独立した一戸の家のようになっている。道路を挟んですぐ近くに住宅地があり、お隣さんという雰囲気である。近隣の住民の要請もあって建てられたホームということもあり、併設の特別養護老人ホームともども地域住民に認知され、交流も深い。運営者、管理者、職員とも認知症ケアの向上を常に念頭におき、利用者主体のケアを実践している。地域からの期待も大きく、それにこたえるべく日々努力する姿勢が感じられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の外部評価での指摘事項を前向きにとらえ、改善した。職員には常に自分達のケアを見直そうという姿勢がある。『緊急時の対応』は併設施設の看護師から応急手当の指導を受けるようにし、消防署による講義も予定している。『服薬支援』では、利用者の薬の副作用についても治療薬マニュアル等を参考にしたり、看護師やかかりつけ医から情報を得て把握するようにした。『注意の必要な物品の保管』では、利用者の状況に合わせて危険がないよう対応している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価を行うにあたって、きちんと現在行われているケアを振り返り、更に良いものにしていくという姿勢が感じられる。自己評価も厳しく行ない、常に利用者主体のケア提供をめざしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を利用し、地域とのつながりを深めている。特に、防災に関しては、運営推進会議を活用して地域の防災会へ避難訓練の協力を依頼して、地域の方々も利用者の避難に協力してもらうなど積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族との意見交換は、面会時、介護計画の確認時などに行っている。家族の意見に関しては、できるだけ取り入れようとする姿勢があり、言い難い雰囲気ではない。家族の不安もできるだけ解消するように努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域とのつながりは深く、散歩に行くと近所の方から野菜をもらったり、老人会の行事に参加したり、廃品回収に協力したりと、密接に交流が図られている。災害時の対応等では、地域の一員として地域の組織体制の中に組み込まれており、ホームの存在が地域にきちんと認知されていることが伺える。法人としても、地域の要請にこたえるべく常に配慮している。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です)

↓  取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を踏まえて、ホームの目標を「生きがいと安らぎのある暮らし」と具体的に表現し、その実践に努めている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの目標を実現するために、入居者を主体に考え、入居者一人ひとりのニーズを実現して日々の暮らしを実りあるものにしようと、日々の話し合いや毎月のミーティング等で意見交換している。		
		家族や地域への理念の浸透			
2-2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域からの要望にこたえてグループホームが開設されたこともあり、地域にホームの存在や役割が理解されている。ホームの目標については、家族に対しても入所の際に説明をして理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同じ敷地内にある特別養護老人ホームと合同で町内会に声をかけて夏祭りを開催したり、老人会の行事に参加したり、廃品回収に協力したりと、地域の一員として交流を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームとして、サービス評価を活用してケアサービスの質をより良くしていこうとする考えがある。前年度に指摘された点に関しては、前向きに改善に取り組んだ。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、地域との意見交換の場として活用している。特に防災の面で、運営推進会議を通じて地域と連携が深まった。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護予防推進室と連絡を取り、運営体制や防災体制について、相談したり意見をもらうなど日頃から連携している。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から職員間でも利用者との関わり方について確認しあっている。リーダー会議、全体会議等でも確認し合い、意見交換を行っている。今後、このテーマについて研修を行う予定もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、毎月、おたより等で報告したり、面会時に報告したりしている。金銭管理や健康状態については、必要に応じて管理者から報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時などに管理者や職員と話をする機会を設けている。そのときに出た意見、不満、苦情はミーティングや全体会議で話し合いを行っている。また、直接ホームへは話しにくい人のために、市役所や国民健康保険団体連合会等の外部機関の連絡先も明示している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の席上や普段のミーティングの時など、職員からの意見、要望等を聞く機会を設けたり、運営者や管理者から呼びかけたりして、言いやすい雰囲気醸成している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員によるケアを心がけ、大幅な人事異動がないように配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人全体での各種マニュアルが整備されている。特に防災関係のマニュアルは年1回の見直しが行われており、その他のマニュアルについても必要時に随時見直しがされている。今後、グループホーム独自のマニュアルも作っていく予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会に参加する機会を設けているほか、ホームとして年10回程度外部研修に行く機会を設けており、1人に1回は出られるように配慮している。研修に参加した後は、ミーティング時に復命したり資料を回覧して、全体で共有できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワークには加入しているが、地域の同業者との交流する機会はあまりない。		新規開設事業者等の見学等の受け入れはしているので、それらの機会を通じて、他のホームの施設見学をしたり、情報交換をするなどよりいっそうの交流に取り組んでほしい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、管理者や職員が意見を言いやすい環境を作る努力をしている。また、管理者や計画作成担当者が、職員の意見を聞く体制を作っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族からの情報や、訪問調査の際に在宅状況等をよく把握して、なじみやすい環境作りに努め、少しでも早くホームに溶け込めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴等を十分に把握し、得意なことや希望を生活の中に活かしている。また、その方の能力を活かせるよう、利用者が主体的に行動できる生活環境を整えている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪しやすい雰囲気作りに努めるとともに、家族の思いもできるだけ理解した上で、ともに利用者の生活を支援するよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族から、その方の希望や意向等を十分に把握し、それに合った生活が送れるように配慮している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や利用者との会話の中から、その方のそれまでの生活歴や生活環境を読み取り、普段の生活に活用するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	可能であればカンファレンス等に家族も出席してもらい、利用者や家族の意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間に応じて評価、見直しを行い、また月1回モニタリングを実施して、利用者の状態変化に合わせて介護計画の見直しをしている。面会等で家族が訪れた際にも希望を聞くようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に沿った柔軟な支援ができるように、職員間で話し合い、連携して取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、家族の協力を得て、入居前からかかっている医療機関に引き続きかかれるようにしている。また、必要なときには往診してもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用者や家族と話し合い、かかりつけ医と相談しながら、方針を決定し支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の行動を否定せず、個別の対応を大事にしている。個人情報の取り扱いに関しては、全体会議等で職員に徹底し、実施している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大事にしながら、利用者本人の気持ちを尊重し、個性のある支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買物に行き、食材選びをしたり、調理も役割分担するなど、できる限り利用者と職員と一緒に調理し、食べ、後片付けをできるようにしている。メニューは利用者の好みに配慮しながら立てて、実施したメニューを併設の特別養護老人ホームの管理栄養士より見てもらい、カロリーやバランスをチェックしてもらっている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に合わせた支援方法を検討して実施している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間やタイミングは利用者の希望にあわせている。入浴の拒否があっても無理強いをせず、本人が入浴したいときに入ってもらえるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、畑仕事、買物、手芸等、利用者の意見や希望にそって、その方に合った楽しみごとや気晴らしになる活動を提供している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はできるだけ散歩に出かけたり、週3回程度は一緒に買物に出かけるなど、可能な限りホームに閉じこもらず外に出かける機会を作っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回は職員が身体拘束に関する研修に参加し、その内容を復命している。また、日々の取り組みの中や全体会議等で「身体拘束をしないケア」の実践を話し合っている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関には鍵をかけていない。外に出たい様子のある利用者には職員が付き添って対応している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や異食等の危険が考えられる利用者に対して、一人ひとりの状態を普段から話し合い、情報を共有して、事故を未然に防ぐために対策をとっている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	応急手当については、併設の特別養護老人ホームの看護師から指導を受けている。今後は、消防署から署員を派遣してもらって講習等を行う予定である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	運営推進会議で災害時の協力について地域に要請し、地域の防災会や消防署と合同で避難訓練を行っている。何かあったときには、地区の防災会が協力してくれる体制になっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特別養護老人ホームの管理栄養士より献立をチェックしてもらい、栄養のバランスを考えた食事となっている。食事量も利用者ごとに確認し把握している。		水分量に関しては、必要な利用者だけのチェックとなっている。高齢者に起こりやすい脱水等のことも考慮して、できれば全員の水分摂取状況について普段から把握しておくようお願いしたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはさりげなく季節の花々を飾るなど季節感を演出している。採光も考慮された造りの建物であり明るく、自然の風も通るようになっており、快適な環境である。料理のにおいなどで利用者が食堂に集まってきたりと、生活感も感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具等が持ちこまれ、利用者それぞれの特徴や生活歴を感じさせる居室となっている。		